2022 年 1 月 10 日

「災害の記憶をつなぐ(仮)」についての中間報告と追加原稿募集（2022 年 1 月 10 日現在）

生涯学習委員会

寒さ厳しき季節になりました。新型コロナウイルスが再び、猛威を振るいだしましたが、みなさまには、お健やかにお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。

2020 年 11 月に始まりました生涯学習委員会の企画『災害の記憶をつなぐ(仮)』刊行のための原稿募集は、おかげさまで順調に集まっており、来年度には、発刊の予定になりました。協力いただいた支部の方がたや寄稿していただいた方に、心より御礼申し上げます。

この書籍は、ISBN などを取り、広く社会に流通させる出版形態を検討しております。なるべくならば、若い方がた、これから、社会に出て社会の中心となっていく年代に向けて発信できたら、とも考えており、学校で副読本的に取り扱っていただいてもいいような内容も含んでいます。

この企画は、大学女性協会という全国組織であるが故に実現できた企画、と自負しております。

会員のみなさまの記憶に残る日本に起こったいろいろな災害の生々しい状況やそのときどのように対処したかの記録や、先人たちが残してくれた言い伝えは、この先、後の人たちに貴重な資料となることと信じております。

現在の原稿の集まり状況を目次（仮）でご報告いたします。

原稿の題は、全体のつり合いや、出版向けのために、オリジナルからかなり変わっているものがありますが、現時点ではあくまで仮題であることをお含みおきください。

『災害の記憶をつなぐ』目次（仮）

◆◆◆　東日本大震災の記憶をつなぐ

◆◆二〇一一年三月一一日午後二時四六分、宮城の地で

- 幻のクリスマスローズ
- 津波に巻き込まれた我が家
- 世界が終わる！
- 美容院から飛び出した私
- 美しい音楽に励まされて
- 六四才での人生のリセット
- 流された能楽鑑賞
- ライフラインが全て停止する中で――大きな災害と小さな私
- 一三階の我が家の被災
- 三分続いた大きな横揺れ

◆◆三月一一日の茨城、東京、そして横浜

- 地震と茨城の原発事故
- 東日本大震災で逝った友
- 『キャッツ』観劇の日に――困ったときは相見互い

◆◆その後の日々

- 被災地の知人を尋ねて
- 報道の向こう側
- 震災後に迎えた学会発表
- 物不足、食料不足の日々から垣間見る日本人の品格

◆◆広がる支援の輪

- 赤いブレスレット――アメリカからの支援の輪
- すばやかったドイツの救援・支援活動
- 福島原発避難者の支援チームの一員として
- 大学生への義援金

◆◆復旧への道のり

- 被災地にピアノをとどける会
- 震災五十日後の美術館トーク
- 復興の日々に思うこと
- 石巻市・東松島市の五年後

◆◆◆　阪神・淡路大震災の記憶をつなぐ
◆◆一九九五年一月一七日五時四六分の兵庫県
- 亡き妹への手紙
- 築百二十年の我が家が一瞬のうちに
- 家族が三か所に分散した避難生活
- 阪神・淡路大震災に遭遇して

◆◆復興への道のり
- 西宮十年の復興の道のり
- 朝の時間が止まったような衝撃の記憶
- 神戸の惨状から早十年
- 神戸復興十年の道のり
- 復興へのみちのり――震災十年を迎える宝塚
- 震災から十年　非常時のメディア

◆◆◆高校生からのお礼の数々――高校生に提供した奨学金（仮題）　未修正
- 奨学生から寄せられた想い
- 奨学生のその後

◆◆◆日本列島災害の記録
- 古代から伊良湖岬を襲う災害の歴史
- 六万年前の箱根の火山灰層――公園に見る噴火の痕跡

◆◆◆来たるべき災害に備えて――経験からの提案
- はじめての避難生活――行政の役割の重要さ
- 家庭での災害への備え～知識上の震災と実際の震災は違った（東日本大震災）
- 災害とジェンダー～少女と女性のための防災グッズとキットを作成して～
- 役に立った宮城県沖地震の経験
- 我が人生四度目の災害
- 伝えることの大切さ
- 届けられなかったパンの缶詰
- 震災から十年　ネットワークを紡ぐキーパーソンとして
- くまもと未来への復興人材育成

◆◆◆日本の災害について世界に発信する
- 二〇一九年七月スイスのジュネーヴでの大学女性インターナショナル世界大会で――「減災のためにできること」
- アジアの女性に語った福島原発事故～原題・Flight from Fukushima（福島からの遁走）

これ以外にも、整理中の原稿あり

日本の有史以来を考えますと、ご覧いただきましたように、阪神・淡路大震災以降の比較的最近の災害に関する記事が中心となっております。

実際の編集作業は、ワーキング・グループを立ち上げ、作業中ですが、委員から、折角これだけのものが集まったのであるから、再度の原稿募集をしたらどうか、という意見がでてきました。

というのも、自然災害の多い日本列島では、まだほかにも、記憶に新しい災害もあります。全国に支部のある大学女性協会ですので、会員のみなさまの中には、**台風被害の多い地域の方、豪雨・豪雪災害、火山災害**などを実際に経験された方や知人やご親戚の方から聞いた話などもまだお持ちかと思いますので、さらに幅広く原稿を募集することに意味がある、という考えに至りました。

さらなる『災害の記憶をつなぐ』(仮題)出版のための原稿を募集いたします。
原稿の内容 ： 提言。本人・友人・ご親戚の災害に関する記憶(思い出も含む)。地域に残る言い伝え。
長さ ： 50 字以上、800 字を越えても構いません。
〆切 ： 2 月末。今回が**最終の募集**になります。
一人あたりの原稿数の制限 ： ありません。内容や視点が違えば、何本でも構いません。
送付先 ： メールのみ。j-cafe@jauw.org

以上